



今年も大盛況

菊人形・菊花展

元善光寺

秋の風物詩、元善光寺の菊人形飾り展が、今年15日まで1カ月にわたり開催されました。門前町の発展を願う大正14年（1925）に始まったこの伝統行事には、期間中2万人近い人が訪れます。小菊をまとった人形はいまでも地域の人々の手で作られています。



千本の竹ぼんぼり

除夜の竹宵

12月31日・大晦日

今年で5回目を迎える除夜の竹宵。今年も麻績神社参道から境内に、千本以上の竹ぼんぼりを並べます。竹筒に火を灯し、除夜の鐘の音を聞きながら、新しい年の幸せを願います。地元で生まれた行事ですが年々盛り上がりを見せ、元善光寺の二年参りとともに親しまれています。

麻績の里ふるさと応援倶楽部では、本紙の情報や座光寺地域の情報をホームページ上で発信しています。これらは携帯でも見ることが可能ですので、下のQRコードを読み取り、メールマガジンの登録を行ってください。登録していただいた方には、定期的に情報が携帯電話に発信されます。



いまずくこのQRコードを読み取ってメルマガ登録!!

あとがき

ふるさと座光寺会のみなさんをはじめ、座光寺を心のふるさとと思ってくださるみなさんに「麻績の里 座光寺便」をお送りすることになりました。リーフレットのコンセプトは紙上ふるさと紀行(一)。座光寺の四季や住民の暮らしの様子を、飾ることなくお知らせします。紙面から「ふるさと」を少しでも感じていただければ幸いです。

私たちが期待するのは、みなさんとの出会いがやがて息の長い交流に発展すること。当紙がその仲立ちになれるよう、紙面の充実ががんばつてまいります。ご意見ご感想などお気軽にお寄せください。

色づく里 豊穡の秋

天竜川の朝霧、たわわに実つたりんごや柿、山を染める錦の絨毯……。麻績の里は、山里が美しく色づき、実りの季節を迎えています。10月にこの地方を台風が直撃し、結実した果樹が風で落下する甚大な被害が出ました。今年も春の「霜害」、夏の「長雨」、秋の「台風」と、まさにトリプルパンチに見まわられた年でした。それでも農家の人はがんばり、秋の恵みに元氣を取り戻し、田んぼは刈り取りを終え、日の光に輝いています。遠く南アルプスに目をやれば、いつもより早い初冠雪が。そしてふもとの山は紅葉の真っ盛り。赤、黄、朱……と多彩に、艶やかに装っています。



刈り入れを終えた天竜河畔の水田

麻績の里 座光寺便

2009.11 Vol.1

晩秋の風物詩・柿すだれ

